

CSR-NPO 未来交流会 2022

東京湾の多様な視点-社会連携によるイノベーションで脱炭素社会を目指す-

令和3年度 CSR-NPO 未来交流会

- 開催日時 令和4年3月16日(水) 13:10~16:15
- 開催場所 Zoom ライブ配信 参加交流
- 主催 東京湾再生官民連携フォーラム
- 協力 経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団
- 参加団体 42団体、49名

プログラム

I部 講演	
ご挨拶	東京湾再生官民連携フォーラム 議長 來生 新 氏
講演-1 カーボンニュートラルポート(CNP)の 形成に向けた取組について	国土交通省 港湾局 海洋・環境課 港湾環境政策室長 川崎 俊正 氏
講演-2 海とみなと研究所の設立・東京湾への取り 組みと社会連携	神奈川大学 海とみなと研究所 所長 関口 博正 氏
講演-3 カーボンニュートラルと官民連携 フォーラム	東京湾再生官民連携フォーラム 議長 來生 新 氏
II部 情報交流	
意見交換 質問等	事務局 アンケートの実施

3/16、AP虎の門会議室を利用したZoomによる交流会を開催した。

参加者双方による、組織紹介の場として、活用してきたが、今回もコロナ対応により、講演を中心にしたプログラム構成となった。

テーマは、東京湾の多様な視点としたが、多様に力点を込めたが、結果的には脱炭素社会が共通の重要な話題として取り上げる運びとなった。



フォーラム 來生議長

今や「気候変動、炭素社会からの脱却、自然災害、そしてコロナへの対応」と多くの課題が、グローバルな共通課題として、認識され始めている。

この共通な課題に取り組んでいく姿勢ないしは視点を「世の中の役に立つことは官が、私的な利益は民が」という官民型社会から、「市民が公共性を 紡ぎだす場」としての「共」や「私」からなる市民社会の力を強め、公・共・私型社会へと変えていこうという議論（來生議長資料引用）そしてフォーラムの持つ 21 世紀の時代性、意義の認識が重要となることが議長より提示された。

ネットワークを利用 →
した講演・交流会
の様子



質疑応答では、「港町の文化の研究への取組」、「デジタル化の推進・Twitter の最先端情報の提供に関する取組など」についてのやり取りが行われた。カーボンニュートラルレポートについては、フォーラム事務局から、NPO の組織が具体的に活動するには、その方法等についての質問が行われなど、講師からの意見交換が行われた。